

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）  
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）**

**2014年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属・職名		氏名	
	経済学部・教授		菅沼 隆 印	
研究課題	国民皆保険・皆年金と社会科学者の役割－社会保障制度審議会のアーカイブズ学的研究－			
研究組織	所属機関・部局・職名		氏名	
	【研究分担者】 立教大学・経済学部・教授		菅沼 隆	
	関東学院大学・経済学部・講師 (立教大学兼任講師)		田中 聡一郎	
	流通経済大学・経済学部・准教授 (立教大学兼任講師)		百瀬 優	
	立教大学・法学部・助教		浅井 亜希	
	立教大学・社会学部・助教		深田 耕一郎	
	立教大学・法学研究科・院生		新嶋 聡	
研究期間	2014年度～2015年度			
研究経費	2014年度	2015年度		総計
	(上段:支出金額) 3,000,000円	円		3,000,000円
	(下段:採択金額) 3,000,000円	3,000,000円		6,000,000円

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

研究1年目の成果では、社会保障史資料についてのアーカイブズ学的な貢献として、①「佐口蔵書」を利用した社会保障制度審議会や社会保障関連委員会の資料目録の作成、②社会保障関係者のオーラルヒストリー資料の作成、また社会保障の歴史研究として③厚生官僚追悼集の分析を実施したことがあげられる。

これらの成果から、「国民皆保険・国民皆年金」の実現に向けて、社会保障制度審議会等の審議会や社会科学者がどのような影響を及ぼしてきたのか、厚生官僚の構想を補助線に加え検証したと考えられる。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 国民皆保険・皆年金 ] [ 社会学者 ] [ 審議会 ]

**研究【経過・成果】の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本年の研究経過について、A：プロジェクト全体の研究成果について、B：各プロジェクトの実施経過の2つの項目に分けて概要を示すこととする。

**A：プロジェクト全体の研究成果について**

研究1年目の成果として、社会保障史資料についてのアーカイブズ学的な貢献として、①社会保障制度審議会や社会保障関連委員会の資料目録の作成、②社会保障関係者のオーラルヒストリー資料の作成、また社会保障の歴史研究として③厚生官僚追悼集の分析を実施したことである。

第1の社会保障制度審議会や社会保障関連委員会の目録作成については、社会保障制度審議会を研究する上でのキーパーソンである早稲田大学名誉教授の佐口卓氏が所蔵していた「佐口蔵書」の整理を行い、途中経過を「佐口卓氏所蔵の審議会資料・行政資料について」と題した資料紹介を『立教社会福祉研究』第34号に掲載することが出来た[研究成果1]。「佐口蔵書」には「国民皆保険・皆年金」の展開過程における中央政府・地方政府・審議会・研究機関・政党・労働組合などの文書・資料、戦時中からの新聞記事のスクラップブック、そして佐口氏が関与した審議会や各種委員会の資料も丁寧に整理して保管され残されている。また「佐口蔵書」は通算で段ボール50箱以上であるため、目録の編集は必須であり、『佐口卓氏(早稲田大学名誉教授)所蔵の審議会・委員会資料目録』が近々公刊される。[研究成果5]なお古資料やスクラップブックの資料整理は継続して行う必要がある。

第2の社会保障関係者のオーラルヒストリー資料の作成は、首尾木一氏(元厚生省)、玉井金五氏(大阪市立大学名誉教授、愛知学院大学教授)、増田進氏(緑陰診療所医師)から聞き取りにより実現できた。

首尾木一氏からは、厚生白書執筆時の思い出や国民健康保険課長時代の取り組みなど1960年代の厚生行政を中心に聞き取りを実施した。[研究成果10]

玉井金五氏からは研究履歴(戦前の社会政策史研究や都市政策の日英比較)とともに、大阪府と大阪市が協同で設置した「あいりん総合対策検討委員会」の委員での実践等について聞き取りを実施した。なおこのヒアリングは、2014年度第3回社会保障研究会との合同開催であり、大学の垣根を超えた社会保障研究の交流機会ともなった。[研究成果11]

増田進氏からは、全国で始めて乳幼児・老人医療費無料化を実施した旧沢内村での医療の実践について聞き取りを実施した[研究成果12]。これらのヒアリングと報告の様子は報告書としてまとめられる。

第3に、官僚追悼集研究に着手した点である。「佐口蔵書」の中には、厚生官僚が逝去された際に編まれる追悼集が複数存在した(『高橋敏雄さん』、『小山進次郎さん』、『清水玄さん』、『小島米吉さん』、『館林宣夫さん』等)。追悼集には雑誌論文や座談会で語られない「当事者の肉声」が収められているが、官僚の追悼集を対象とした研究は皆無に等しい。そのため、2015年1月31日の立教大学社会福祉研究所総会にて、「「国民皆年金」形成過程の証言—厚生官僚追悼集のアーカイブズ的研究」と題した報告を行った[研究成果6]。この報告成果は2015年度に社会保障の専門誌に掲載される予定である。また同報告では追悼集の目次の一覧を作成し披露した。追悼録の目次は国会図書館サーチには収録されておらず、目次一覧を雑誌に投稿する、あるいは目次を冊子化して公開する価値がある。

1年目はプロジェクト全体を通して、史料整理・目録作成、オーラルヒストリー資料作成による学術貢献、紀要への論文投稿による立教大学社会福祉研究所の研究活動へのフィードバックを果たした。これらの成果から、「国民皆保険・国民皆年金」の実現に向けて、社会保障制度審議会等の審議会や社会学者がどのような影響を及ぼしてきたのか、厚生官僚の構想を補助線として加え検証したと考えられる。少子高齢化が進む今日において、社会保障政策に関する資料を保存することは、後世への説明責任を果たすことでもある。以上がプロジェクト全体の研究経過である。

**研究【経過・成果】の概要 つづき****B：各プロジェクトの実施経過について**

本プロジェクト研究は、「社会保障制度の構想に関する研究班」と「社会保障制度審議会のアーカイブズ学的研究班」に分かれて研究を進めている。研究会実施による研究成果の進捗状況の確認（2014年6月21日、12月20日、2015年1月31日）や実施調査による資料収集などを実施した。以下、各プロジェクトの経過を確認する。

**①「社会保障制度の構想に関する研究班」の経過**

部会代表である菅沼が中心となり、「『社会保障制度改革国民会議報告書』を読む」と題した研究会を2014年6月21日に開催した。社会保障制度改革国民会議は、経済学や政治学などの社会学者たちが委員を務め、2012年8月から1年間存在した国民的な社会保障論議の場である。今日の社会学者と審議会・委員会の関係を検討するだけでなく、社会保障制度の理念がどのように変化しつつあるのかについて議論した。この研究会において、浅井は「少子化対策分野の改革」を、百瀬は「年金分野の改革」を、そして菅沼は「社会保障制度改革の全体像」について報告した。[研究成果 9]

また玉井金五氏からはご自身のオーラルヒストリーに加えて、社会保障制度審議会が1950年に発した「社会保障制度に関する勧告」を起草した際のキーパーソンである近藤文二氏に対する報告も頂戴し、社会学者が皆保険・皆年金体制をどのように評価してきたと考えられるのか議論した。[研究成果 11]

百瀬は、公的年金に関する広報や情報発信の重要性が、反対運動に直面した国民年金創設時から認識されていたこと、そして、近年、研究者も参加する政府の審議会や検討会でその改善が検討されていることに着目して、市民が社会保障（年金）をより良く知るための方策について考察を加えた。[研究成果 3] 菅沼は『社会保障論』（成文堂）において日本の社会保障の歴史を執筆し、佐口文庫の文献も使用して、明治期から最近までの日本の社会保障の通史について解説した[研究成果 4]。

**②「社会保障制度審議会のアーカイブズ学的研究班」の経過**

部会代表である田中が中心となり、資料目録、オーラルヒストリー資料の作成については、「Aプロジェクト全体の研究成果について」に示した成果を得た。

また田中は「国民皆年金」形成過程の証言」の報告を行い、追悼集は「複数人による伝記」であることが多いのに対し、座談会には「政策プロセスの証言」が多く含まれていること、また過去の座談会の方が詳細な情報が掲載されていることなどを国民年金法制定に関する議論・資料を用いて指摘した。[研究成果 6]

さらに新嶋は、「国民皆保険・皆年金」達成後の日本で政治争点となる公害問題について、厚生省が主体的に公害対策を講じた様子を描き出した。厚生省が1964年8月に発表した「厚生行政の課題」は通産省と共管による公害防止事業団の創設を促し、1967年に公害対策基本法が制定されるには公害審議会の答申が鈴木善幸厚生大臣の動きを後押ししたという。審議会が政策立案に影響力を有したという指摘は、本プロジェクト研究を進める上で示唆に富むと言えよう。[研究成果 2, 8, 7]

**③ 実地調査の実施**

他にも、実地調査を行った。2015年2月14日には、日本社会事業大学所蔵の伊部文庫・平田文庫の調査を実施した。2015年3月25・26日には旧沢内村の調査を実施した。

各班の論考が示すものは、社会保障制度の立案における審議会の役割、そして審議会研究の必要性を明らかにしたことであろう。審議会・委員会を舞台にして社会学者のうち「誰が」「何を」提言したかを示すことは、社会学者たちの影響力を明らかにすることだけでなく、審議会が果たした機能を検討する意味を与えてくれよう。

以上の研究経過（①～③）を踏まえ、研究2年目は佐口蔵書の審議会・委員会資料目録の公刊、さらなるオーラルヒストリー資料の作成などの社会保障史資料についてのアーカイブズ学的貢献を果たしたい。また「国民皆保険・国民皆年金」の実現に対して、社会保障制度審議会などの審議会や社会学者が与えた影響をさらに検証し、学会報告や論文を通じて本プロジェクトの成果を明らかにする予定である

※ この（様式2）に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

### ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

- [1] 菅沼隆、土田武史、新嶋聡、田中聡一郎「佐口卓氏 (早稲田大学名誉教授) 所蔵の審議会・委員会資料について」、『立教社会福祉研究』第34号、2015年3月 (近刊)。
- [2] 新嶋聡「佐藤栄作内閣の公害対策—「経済開発」と「社会開発」を巡る葛藤—」『中央史学』第38号、2015年3月、pp.58-77。
- [3] 百瀬優「公的年金に関する広報や情報発信」『週刊社会保障』68(2803)、2014年12月 pp50-55。

### ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

- [4] 菅沼隆「第14章日本の社会保障の歴史」土田武史編『社会保障論』成文堂 (2015年3月刊)、pp.291-313。

### ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

#### 報告書

- [5] 菅沼隆、土田武史、新嶋聡、田中聡一郎『佐口卓氏 (早稲田大学名誉教授) 所蔵の審議会・委員会資料目録』 (近刊)。

#### 学会報告等

- [6] 田中聡一郎・新嶋聡「「国民皆年金」形成過程の証言—厚生官僚追悼集のアーカイブズ的研究」、立教大学社会福祉研究所2014年度研究例会、2015年1月31日、立教大学池袋キャンパス12号館。
- [7] 新嶋聡「公害審議会と厚生官僚—技官研究への足掛かりとして」、立教大学社会福祉研究所2014年度研究例会、2015年1月31日、立教大学池袋キャンパス12号館。
- [8] 新嶋聡「高度経済成長期の公害問題—佐藤栄作内閣の「社会開発」構想を軸に—」、中央史学会第39回大会、2014年7月5日、中央大学多摩校舎三号館。
- [9] 菅沼隆・浅井亜希・百瀬優「社会保障制度改革国民会議報告書を読む」2014年度第1回社会保障研究会、2014年6月21日。

#### オーラルヒストリー資料作成

- [10] 「首尾木オーラルヒストリー」2014年9月8日実施。
- [11] 「玉井金五オーラルヒストリー」2014年12月20日実施、2014年度第3回社会保障研究会、立教大学池袋キャンパス16号館。
- [12] 「増田進オーラルヒストリー」2015年3月25日実施、緑陰診療所。

以上